

2022年1月29日

全塾協議会 御中

全塾協議会事務局 事務局長

## 矢上祭実行委員会の会食に関する報告

表題の件について、全塾協議会監査規則第6条第2項の定める監査人として、次の通りにご報告いたします。

### 1. 調査概要

#### 監査について

2021年10月25日にEメールにて全塾協議会事務局（以下、事務局）に矢上祭実行委員会からその構成員による大人数での会食が行われたとの報告があった。これを受けて、事務局は矢上祭実行委員会に対する調査を行った。

#### 調査方法

以下の方法を用いて調査を行った。

- ・ 矢上祭実行委員会から提出された資料の読み取り
- ・ 矢上祭実行委員会への聞き取り

#### 本調査の事実認定方法

原則として、以下のものから得られた内容を事実と認定している。

- ・ 矢上祭実行委員会から提出された資料
- ・ 矢上祭実行委員会への聞き取り

## 2. 前提

### ① 矢上祭実行委員会の概要

矢上祭実行委員会は、慶應義塾大学矢上キャンパスの学園祭である矢上祭の開催と運営を主に行っている全塾協議会の所属団体である。

### ② 矢上祭実行委員会の組織

#### 執行部

1. 委員長 1名
2. 副委員長 2名
3. 企画監査 1名
4. 財務 1名

#### 役員

1. 執行部
2. 全ての局長
3. 全ての副局長
4. 副財務

#### 局

1. 総務局
2. 広報局
3. 渉外局
4. 装飾局
5. 室内局
6. 屋外局
7. ステージ局

### ③ 団体内での連絡手段

矢上祭実行委員会では、団体内で連絡を行う際にコミュニケーションツール「LINE」が主に用いられている。全体や局ごとにグループがある。

## 3. 発生した問題

### 問題概要

屋外局内で矢上祭の打ち上げという趣旨の会食が立案され、LINE のトークルームにて参

加者が集められた。未成年を含む屋外局員 30 人が、日吉キャンパス近辺の食事も提供する形式のバーにて、10 月 16 日の 18 時 20 分から 2 時間程度の会食を行った。10 月 18 日に、日吉学生部から本件に関する事実確認の連絡が委員長に対してあり、委員長がこの事態が発生していたことを初めて認知した。

## 4. 監査人意見

### 問題点

本件は、構成員による会食であるが、矢上祭実行委員会の局単位で矢上祭の打ち上げを目的に実施されており、明らかに団体の活動であった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、慶應義塾大学の学生団体が対面での活動を行う際は学生部に課外活動再開申請を提出し、その許可内容に則って活動を行うことになっている。その中、今回の矢上祭実行委員会の行動は、課外活動再開申請を提出せずに行われたものであった。また、会食が行われた 10 月 16 日は緊急事態宣言下ではなかったものの、リバウンド防止措置期間であり、神奈川県から同一グループの进店案内を原則 4 人以内とすることが広く要請されていた。参加人数は 30 人であり、4 人を遥かに超える人数であった。矢上祭実行委員会内で取られたこのような行動は、感染拡大防止への配慮が著しく足りない対応であったと言える。

### 矢上祭実行委員会の今後の活動について

矢上祭実行委員会によると、団体内では新型コロナウイルスによる感染者を出さないために「コロナ規則」が定められており、構成員に対して会食を強く自粛するよう求めている。また、執行部としても、団体全体の会議にて打ち上げを行うことを厳に慎むよう喚起していた。しかし、このような事態が起こってしまった以上、その周知が不足していたと言わざるを得ない。その上に、今回の問題発生を委員長は日吉学生部からの連絡を受けて初めて認知しており、団体内の情報共有にも問題点があるのではないかと考える。

矢上祭実行委員会は、全体で 300 人程度が所属する団体であり、情報共有と情報把握にはより工夫が必要なのではないかと考える。全体に連絡することができる LINE グループはあるが、各局でどのようなやり取りが行われているのか執行部は把握できていない。チャットの部屋を複数管理できる連絡ツールなどを導入し、団体内の情報共有と情報把握の改善をすべきである。

### 全塾協議会による処分と今後について

本件における矢上祭実行委員会の行為は、「所属団体は常に全塾生のための福利厚生を増進を図るための責任を負い、その限りにおいて活動を保障される」とする全塾協議会規約 38 条 1 項に違反するものである。塾生を代表する、全塾協議会所属団体としての意識が極めて低く、断じてその行為は認められるべきではない。よって、全塾協議会は規約 53 条 1 項に

定める処分を行う必要があると考える。

兼ねてより、全塾協議会としては感染対策を行った上での対面活動再開を大学に求めてきたが、今回矢上祭実行委員会によって行われた対面での飲食を伴う活動は、その活動再開要求には含まれない大人数での対面での飲食を伴う活動である。このような感染対策上危険な行動は自粛することを学生も徹底した上で、対面活動に対する制限がより緩和されるものであると考えられるが、本件はその信頼を損ねる行動である。全塾協議会として、本件があってはならない行動であることを明確に広く発信し、処分を含む必要な措置を取るべきである。

以上